

公益財団法人

宮城県国際化協会

MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION

倶楽部

MIA

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

美里町で次世代型農業に 取り組むインド出身

工場長



ブシャン ハスタック さん
インド共和国デリー出身 美里町在住
株式会社舞台ファーム 美里グリーンベース 工場長



美里グリーンベースのハスタックさん

—来日のきっかけや来日後のことを教えてください。

単身来日していた父が仙台でインドカレーの店を開き、母と私と妹2人も一緒に暮らすことになりました。2度の来日経験の後、最終的に母国で10年生(*インドの学制は初等5年、上級初等3年、中等2年と共通試験合格者が進む上級中等2年)を修了し、仙台に引っ越して来たときは16才でした。以後宮城県で暮らして21年経ちました。「宮城県は寒いでしょ」とよく聞かれるのですが、デリーはインドの北部にあって冬は氷点下5度まで下がるので、さほど変わりません。毎日、父の店を手伝いながら市民センターの日本語教室へ通ったり、独学で漢字を勉強したりしていましたが、日本でずっと暮らすつもりだったので、日本の学校へ通って日本人の生活や社会について学ぼうと決めて、20才のときに市内の定時制高校へ入学しました。日本語の読み書きに自信が持てるようになったこと、日本人の「常識」を理解できたことは、大事な糧となりました。

—美里町へ転居後、インドカレーのお店を経営していたそうですが、美里グリーンベースでレタス栽培に関わるようになったのはどうしてですか。

東日本大震災後に妹の新規就農と前後して美里町へ家族で引っ越し、2014年に私は父の店から独立して大崎市古川でインドカレーのお店を開きました。たくさんのお客様にご愛顧いただきましたが、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、残念ながら2021年に閉店しました。

当時、子どもがまだ1才で子育て優先の日々を過ごしていたところ、米作りを学んでいた頃に知り合った株式会社舞台ファームの専務に誘われ、美里町に設立した大規模レタス工場に主に通訳として働き始めました。5.1ヘクタールあるハウス施設はオランダから輸入されたハイテク設備とコンピューターで種まきから収穫まで管理しており、日光あるいはLED照明を24時間当てながら40~44日かけて栽培した数種のレタスを毎日3万株以上、全国のコンビニやスーパーのサラダやお弁当向けに出荷しています。単純作業を繰り返す仕事は好みではないと思っていたのですが、実際は全く逆でした。日々改善点を見つけ、現場で学びながら実践を重ねているうちに、工場全体に深く関わっていくようになり、2023年7月には工場

長に就任しました。

—会社員となり変化はありましたか。また外国出身の従業員と共に働くことや現在の職場の良さを教えてください。

まず、シフト制の勤務となったので、子どもたちと過ごす時間を確保できるのは何よりです。仕事はレタスの栽培、出荷、従業員のことなど多岐に渡りますが、多面的に考えることは店主だった時と変わらないですし、経験を活かしていると思います。ありがたいことに社長や専務が私を信じて任せてくれるので、プレッシャーを感じずに取り組むことができます。また、国内外の企業から視察訪問が多く、様々な職種の方との出会いがあります。海外の方には英語で詳しく案内できるので、この点でも役目を果たせています。

美里グリーンベースでは現在50人が働いていて、そのうちネパール人など外国人が18人います。国から家族を呼び寄せたいと言う従業員や、この職場を友人に紹介したいと言う技能実習生が多く、この職場の良さを理解してくれているのだと嬉しくなります。また私のヒンディー語と従業員のネパール語は、口語だとほぼ理解し合えるので役立っています。外国人も日本人も全員がとても仲が良く、気兼ねなく意見を出し合い、笑顔で働いています。

私たちの工場は、毎日清掃作業を徹底して行っており、安心かつ鮮度の良い高品質の商品を作っていると自信を持っています。海外からシステムのメンテナンスにやってくる人に「世界中のハウス施設を回っているけれど、ここのレタスが世界で一番!」と言われたときは、皆で喜びました。

—今後の展望などをお聞かせください。

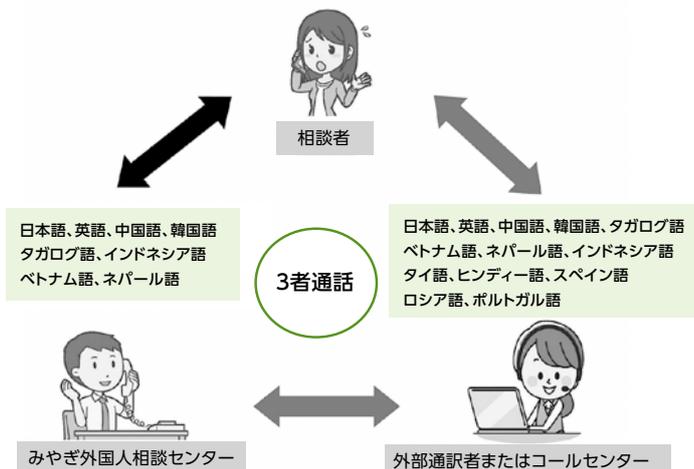
昨夏は収穫場所の気温が40度を超え、作業環境改善の試行錯誤をしていた際、夜間に屋外へ漏れたLED照明がたまたま雲に反射して「ピンクの光を放つ工場」として思わぬ形で広く知られることになりました。お陰様で厳しい気象条件下でもハイテクの強みを活かして栽培できると自信がつかましたので、今後さらに出荷量を増やして、消費者にも従業員にも喜んでもらえる日本一のレタス工場を目指します。

「みやぎ外国人相談センター」から

Q みやぎ外国人相談センターでは、何語で相談できますか。

A みやぎ外国人相談センターでは職員が英語・中国語で対応するほか、それぞれ毎月2回勤務している中国語、韓国語、タガログ語、ネパール語、ベトナム語と月1回勤務しているインドネシア語の計6言語の相談員がおります。希望する言語の相談員の対応日についてお知りになりたい方は、お問合せください。

上記言語で対応できる職員や相談員がいないとき、あるいは別の言語(ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語)で話したい場合は、3者通話システムの通訳者を介してお話を伺います。お困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください!



TEL 022-275-9990 月曜日～金曜日 / 9:00～17:00

◆対応言語◆ 英語、中国語、韓国語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語、日本語



シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



第12回 宮城県松山高等学校 教諭 市川 泰斗さん

高校における外国人生徒の受け入れとその支援について

2022年4月、パキスタン出身のHさんが入学し、2年間Hさんの担任をしています。入学当初、本校としても外国籍の生徒を受け入れた経験もなかったため、どんな支援をすればいいのかも分からず、不安がありました。その中でMIAからの助言をいただきながら、オンラインでの支援が始まりました。オンライン支援では、その時々本人の困り事に合わせて様々な支援をしていただきました。学校生活を中心にした支援の形になっていることで、生徒本人と学校の双方にとって良い方向に向かっていきます。また、今年度より県教育委員会が行っているオンラインの日本語の授業も受講しております。これまでは、その場その場で勉強してきた日本語を改めて系統立てて学習し整理することができる貴重な機会となっております。

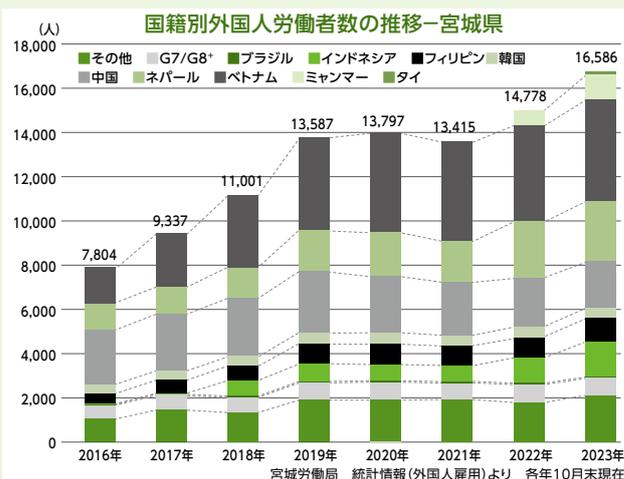
校内ではHさんの存在が周囲に良い影響を与えています。生徒にとって、世の中には多様な人がいて、言語や文化、考え方が違うことを受け入れる機会になっています。また、先生方にとってHさんの支援を考えることで、今まで当たり前だと思っていたことを見直し、全ての生徒が安心して学習できるような環境作りや授業改善にもつながっています。

Hさんは、日常的なコミュニケーションはある程度日本語でできていますが、思考するための言語は英語です。学習をする上で思考する言語が違うというのが大きな障壁になっており、高校卒業後、進学を目指すにあたり、今後の課題となっています。引き続き、Hさんの将来につながるような支援ができればと考えております。

多文化 なトピック

宮城県の外国人労働者数が過去最多を更新しました

宮城労働局の発表によると、2023年10月末時点での宮城県内における外国人労働者数は16,586人で、一年前より1,800人余り増加し、過去最多を更新しました。外国人を雇用する事業所数も2,872か所とこちらも最多を記録しました。労働者の国籍別では、ベトナム4,581人、ネパール2,664人、中国2,111人の順です。また在留資格別では、留学生などの資格外活動が5,142人、技能実習が4,875人と続き、2019年に新設された特定技能が1,100人で前年から2倍以上の増加を見せています。宮城労働局のホームページに資料が公表されていますので、詳細はそちらでご確認いただけます。



MIA日本語講座 2024年4月から始まります！



MIA 日本語講座を開講します。身近に日本語を勉強したい外国人がいらしたら、ぜひご紹介ください。

多言語（日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、ウクライナ語）のチラシも用意しています。

クラス	曜日	時間	期間	テキスト	受講料	定員
初級1 初級2	火～金	10:00～12:00	4月9日(火)～7月19日(金)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥27,500 ※テキスト代別	初級1・2 各18人
中級	火・木	13:00～15:00	4月9日(火)～7月18日(木)	『できる日本語 初中級』	¥14,000 ※テキスト代別	18人
夜間初級1 夜間初級2	火	18:30～20:30	4月9日(火)～8月27日(火)	『日本語初級1大地』 『日本語初級2大地』	¥14,000 ※テキスト代別	初級1・2 各18人

■場所：宮城県国際化協会（MIA）

■各言語のチラシ：https://mia-miyagi.jp/2401jc

■お申込み：https://mia-miyagi.jp/2401japanesecourses または



松島町で「やさしい日本語」の研修を開催しました

2月14日に、松島町において、町との共催で「やさしい日本語」の研修を開催しました（宮城県委託事業）。

MIAが「やさしい日本語」の研修を開催するのは今年度5回目ですが、今回は初めて、ホテルのスタッフや通訳ガイドグループのメンバーなど、観光関係に携わる方々が主な対象となりました。

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、国内外から松島を訪れる外国人観光客の数も回復傾向にあります。そうした方々に英語やその他の外国語ではなく、「やさしい日本語」で「おもてなし」をする方法を考えよう、というのが研修の目的です。

まずは「やさしい日本語」にするための工夫を一通り確認した後、地元の「かき小屋」などについて外国人観光客に説明するワークにチャレンジしてもらったところ、みなさん、とても上手にわかりやすく言い換えていました。

終了後のアンケートでは、「とてもためになりました。ある程度日本語が話せる外国人に試してみようと思います」「外国人に対しての心理的な負担が減りました」といった感想が述べられていました。

インバウンド推進のためにも「やさしい日本語」が役立つという理解が、今後さらに広まることを期待しています。



松島町での「やさしい日本語」研修の様子

シリーズ 多文化介護の現場から

特別養護老人ホーム ウィング

外国人留学生指導員 藤村 由香さん

担い手不足を背景に日本政府は介護現場にも外国人の受け入れを決め、宮城県内でも介護の仕事をする外国人が少しずつ増えていきます。本シリーズは、大郷町の介護施設の外国人留学生指導員、藤村さんに外国人とともに働く介護現場についてご紹介いただきます。

第3回
最終回

仕事の内容と支援で苦労したこと、やりがい

2019年から当介護老人福祉施設で、介護を学ぶ外国人留学生の指導員として働き始めました。現在、ベトナム人5名、ブータン人7名、中国人2名の合計14名の外国人人材を受け入れています。私にとって介護は全く新しい分野でゼロからのスタートでした。今回は指導員としての仕事内容をご紹介したいと思います。まず、受け入れには住居と生活用品の準備から始まり、役場での住民登録や各種手続き、在留資格更新のサポートをします。また、専門学校との連携や通学・通勤の送迎、日本語教師の資格を生かし勉強会も開催しています。

これまで外国人人材の支援で苦労したことは、外国人介護士の一人が、

原因不明の病気で働けなくなった時です。彼女が健康面と収入面で不安な中、私は何ができるか悩みました。とにかく彼女の不安な気持ちに寄り添おうと通院には毎回付き添いました。検査や手術に関する医師の説明や医療費制度を分かりやすく伝えることも大切な役割です。その後、彼女は半年間の辛い治療を乗り越え、今は元気に働いています。

このように、予期せぬ問題に直面することもあります。彼らの成長を直に感じ、私自身も日々新たな発見と学びがあるところがこの仕事のやりがいと魅力です。



藤村さん(左)とベトナム人のレーさん(右)

MIAでは国際理解教育の推進を目的として、外国人講師を小中学校や高等学校などへ紹介しています。バラエティに富んだ外国人講師が各団体を訪問し、母国の紹介や遊びを通して子どもたちと交流する場を提供しています。2月22日には、子どもたちとよりよい交流をするにはどうしたらいいかを話し合うことを目的に、外国人講師のための研修会を実施しました。研修会では2023年度の実施状況や学校からのアンケート結果から見てきた良かった点、改善すべき点を共有しました。また、オーストラリア出身のネイサンさんが実際に高校を訪問した際の内容を実演し、他の講師にどのように国の紹介をしているかを見てもらいました。講師からは、民族衣装を着せたら子どもたちが喜んでくれてとても盛り上がった、実際に国のゲームと一緒に楽しんだ等、経験談をもとにたくさんの意見が飛び交いました。その他にも子どもの学年によって内容を変えている、飽きないように国に関連する道具を持って行って実際に触らせるなど、それぞれの講師の工夫していることを共有する有意義な研修会になりました。MIAでは来年度も国際理解教育支援事業に取り組んでいきます。詳細や申し込みについてはホームページをご覧ください。



意見交換をする講師たち



研修会に参加した講師のみなさん



みやぎの国際活動団体

特定非営利活動法人宮城国際支援の会(MIAA) 会長 鈴木信さん

当会はネパールの恵まれない子どもたちへの支援を目的に活動しています。毎年現地へ出向いて話し合いを進め、学校の建設や運営のほか、診療所を建設してサブヘルスポスト(地域の公的簡易診療所)としてネパール政府の傘下に登録してもらうことで継続的な薬やワクチンの提供や看護師の定期的な訪問などに取り組んでいます。さらに家庭環境を調査して登校できるよう支援するなど30余年の長きにわたる活動が続いています。

2024年は法人設立20周年となり、5月12日(日)にネパール支援の公開記念講演を開催します。どなた様でもご入場頂けますのでお気軽にお越しください。



支援しているネパールの子どもたち

「ネパール人受入れ援助-日本文化/ネパール文化交流事業2024」

- 日時：5月12日(日) 講演会午後2時～
- 場所：多賀城市市民サポートセンター3階大会議室 (JR仙石線 多賀城駅北口より徒歩8分)
- 定員：100名
- 参加費：無料

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙 倶楽部MIAの定期送付(年6回)
- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎本協会あて御連絡ください。
◎本協会の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.132

編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通南宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp

